

学会誌等

英 文

1. Katsunari Nishihara : Development of hybrid-type artificial immune organ by means of experimental evolutionary research method using bioceramics. *Tissue Engineering for Therapeutics Use 1 Organ Regeneration* : 39–50, 1998.
2. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka, Kazushi Hirota : Artificial inducement of bone marrow hemopoiesis by electric bio-chamber of titanium. *Proceedings of ICM & M '97*, 739–743, 1997.
3. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka : Successful development artificial bone marrow biochamber using bioceramics by means of experimental evolutionary study –Reading trilateral riddles of the vertebrates–. *Materials in Clinical Applications*, P. Vincenzini (Editor) Techna Srl, 1999, 353–364.
4. Katsunari Nishihara, Hisakazu Seno, Akira Yanai : Investigation on inducement of tissue around the porous hydroxyapatite ceramics in different environment factors : bone, cartilage, muscle. *Apatite*, 2 : 97–100, 1997.
5. Katsunari Nishihara : Comparative studies on apatite artificial root ankylotic and gomphotic type. *Apatite*, 2 : 121–124, 1997.
6. Katsunari Nishihara, Tsuyoshi Tange, Kazushi Hirota, Kazuko Fujii, Junzo Tanaka : An experimental evolutionary study using sintered hydroxyapatite. *Apatite*, 2 : 129–132, 1997.
7. Katsunari Nishihara, Liping Jiang, Tsuyoshi Tange, Hiroshi Kabasawa : Tissue immunity, HLA and action of the gravity. *J Oromax Biomech*, 4 (1) : 54–57, 1998.
8. Katsunari Nishihara, Liping Jiang : The genuine biogenetic law and recapitulation theory. *J Oromax Biomech*, 4 (1) : 58–61, 1998.
9. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka : Successful development of revolutionizing hybrid-type artificial root with peri-root joint. *Program & Abstracts of 4th World Congress for Oral Implantology* : 148, 1998.
10. Katsunari Nishihara : Evidence of use and disuse theory of LAMARCK by means of experiments. *Program & Abstracts of 4th World Congress for Oral Implantology* : 148, 1998.
11. Katsunari Nishihara : On the evolution of the spine in vertebrates. *Ceramics, Cells and Tissues*, Edited by A. Ravaglioli and A. Krajewski, Edizioni, IRTEC-CNR, 33–38, 1998.
12. Katsunari Nishihara : Evidence of biomechanics-responding evolutionary theory by using bioceramics. *Bioceramics* 12 : 253–256, 1999.
13. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka : Development of artificial root of gomphosis and ankylosis by biomechanical stimuli. *Abstracts of Papers*,

Journal of Dental Research 79, Special Issue, 559, 2000,

14. K. Nishihara, T. Ueda, K. Hirota, A. Ravaglioli and A. Krajewski : Comparative studies on tissue reaction of newly sintered and conventionally sintered hydroxyapatite. *Bioceramics* 13 : 341–346, 2000.
15. K. Nishihara, T. Ueda and K. Hirota : Development of revolutionizing biomaterials substituting various mammalian organs by means of sintered bioceramics. *Bioceramics* 13 : 515–518, 2000.
16. K. Nishihara, T. Ueda, J. Tanaka and K. Hirota : Development of revolutionizing methods for hybrid-type artificial organs by means of bioceramics and biomechanics. *Bioceramics* 13 : 893–896, 2000.
17. Katsunari Nishihara, Hiroshi Kabasawa : Biomechanics-corresponding morphology of the viscerocranium, evidence-based phylogenetics : divergence between reptiles and mammals. *J Oromax Biomech*, 5 (1) : 73–75, 2000.
18. Norio Tsuta, Katsunari Nishihara : Inducement of synovial cartilage around artificially-induced articular by biomechanical stimuli. *J Oromax Biomech*, 5 (1) : 82, 2000.
19. Kiyoshi Kawase, Junzo Tanaka, Kazushi Hirota, Hiroshi Kabasawa, Katsunari Nishihara : Studies on development of biocompatible biomaterials by means of experimental evolutionary studies. *J Oromax Biomech*, 5 (1) : 41–42, 2000.

和 文

1. 西原克成, 松田良一, 森沢正昭: 新しい進化学理論の実験による探索—脊椎動物の力学対応進化学の実験系の確立—. 科研費重点領域研究 課題番号: 264 創発的機能形成のシステム理論 A01 班 平成 8 年度 研究成果報告書「人工生命システム」:114-119, 1997.
2. 西原克成: 哺乳動物の生命の掟とヒトの生き方—その 1—ど忘れ生物学とど忘れ医学. 自然医学, 371:32-36, 1997.
3. 西原克成: ハイブリッド型人工臓器開発・基本概念と生命現象の統一理論. 日本 ME 学会雑誌論文号 医用電子と生体工学 (BME, 35) 148, 1997 (オーガナイズド・セッション).
4. 西原克成: 顔の科学—生命進化を顔で見る—. 日本顎咬合学会誌, 18 (4): 481-492, 1997.
5. 西原克成: 容姿・容貌の医学と免疫病. 第37回日本生理人類学会抄録集:29, 1997.
6. 西原克成: 生命形態の進化を顔で見る. 進学情報センター主催シンポジウム, 「かたちの科学」, 日本口腔診断学会, 東京, 日本大学会館, 第10回日本口腔診断学会総会プログラム・抄録集, 56, 1997.
7. 西原克成: 口腔の機能性疾患の診断と治療. 第10回日本口腔診断学会総会プログラム・抄録集, 57, 1997.
8. 西原克成: アパタイト利用による高度な肝臓器官培養法の試み. 組織培養工学, 23 (8): 315-319, 1997.
9. 西原克成: 新開発人工歯根 (骨性癒着型およびセメント質誘導型) のバイオメカニクスと歯周構造のリモデリングについて. 第27回日本口腔インプラント学会総会抄録集, 53, 1997.
10. 西原克成, 田中順三: 実験進化学手法によるハイブリッド型人工歯根の表面に誘導されたセメント質の検証. 第27回日本口腔インプラント学会総会抄録集, 53, 1997.
11. 西原克成, 森沢正明: ホヤの幼形進化と棘魚類. 第30回日本発生生物学会要旨集: 183, 1997.
12. 西原克成: 口呼吸習癖による骨格系機能障害とその治療法について. 日本一般臨床医矯正研究会 創設 15 周年記念学術大会抄録集: 30, 1996.
13. 西原克成: 口呼吸習癖による免疫系・骨格系の機能障害とその治療—顎口腔の機能性疾患と機能療法について—. 日本一般臨床医矯正研究会, 8: 67-90, 1997.
14. 西原克成, 立川 統, 田中順三, 広田和士: 実験進化学手法によるセメント質誘導型のアパタイト人工歯根の開発. 顎顔面バイオメカ, 2 (2): 59-70, 1996.
15. 西原克成: 現代医学の盲点と生命科学の統一理論 1. 顔の医学と進化学. 治療, 79 (7): 161-165, 1997.
16. 西原克成: 骨格系成体材料研究の最近の進歩と生命科学の統一理論—バイオマテリアルによる脊椎動物の謎の解明に関する研究—, 人工臓器, 26 (4): 840-848,

1997.

17. 西原克成：命の象徴のまがたまと生命進化. 第6回三木成夫記念シンポジウム抄録／発生と進化：5a-b, 1997.
18. 西原克成：三木成夫の形態学と芸術のアナトミー 3 (1) 幼形進化の謎.第4回美術解剖学会講演要旨集：7, 1997.
19. 西原克成：三木成夫の形態学と芸術のアナトミー 3 (2) 精神と心と魂の関係.東京芸術大学, 第4回美術解剖学会講演要旨集：8, 1997.
20. 西原克成：哺乳動物の生命の掟とヒトの生き方—その2 生命形態の謎とバイオメカニクス. 自然医学, 372:38-43, 1997.
21. 西原克成：哺乳動物の生命の掟とヒトの生き方—その3 容姿・容貌のバイオメカニクスと免疫システム. 自然医学, 373:38-43, 1997.
22. 西原克成：20世紀の生物学と世紀末. 油壺シンポジウム抄録, 1:19-26, 1995.
23. 西原克成：脊椎動物の骨格系の特性と進化様式. 油壺シンポジウム抄録, 2:1-5, 1997.
24. 西原克成：Wolffの法則と脊椎動物の進化様式—骨髓造血の意義と免疫系の進化—. 油壺シンポジウム抄録, 2:51-56, 1997.
25. 西原克成：形の進化と顔—生命情報系の暗号解読—. フォーラム顔学'97 第1回日本顔学会大会予稿集：47, 1997.
26. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 2. 子育て5つの誤りと生活習慣5つの誤り. 治療, 79(8):145-149, 1997.
27. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 3.脊椎動物の謎と骨格系物質. 治療, 79(9):150-155, 1997.
28. 西原克成, 田中順三：21世紀の人工歯根開発の必要にして充分なる条件の探求. 17回関東・甲信越支部総会抄録集, 30, 1997.
29. 西原克成：実験進化学手法による生体代替器官の開発と新しい組織免疫学. 第35回人工臓器学会大会予稿集, 人工臓器, 26(4):S-43, 1997.
30. 西原克成, 田中順三：電極を応用した人工骨髓造血器の開発. 人工臓器, 26(4):S-1, 1997.
31. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 4.骨休めと重力解除の健康術. 治療, 79(10):151-156, 1997.
32. 西原克成：原始脊椎動物の毒物排除システムとその応用による大気・大水の浄化法について.オテクノロジー研究会平成9年度シンポジウム要旨集, 25, 1997.
33. 西原克成：異所性・異種性の造血巣誘導と人工骨髓創成.第10回バイオエンジニアリング講演会講演論文集[No.97-72]:372-375,1998.
34. 脊椎動物の謎の解明と生体力学—免疫系・進化・骨髓造血—. 第10回バイオエンジニアリング講演会講演論文集[No.97-72]:380-381,1998.
35. 西原克成：咬合とバイオメカニクス. 第7回日本全身咬合学会学術大会. 日本全身

- 咬合学会雑誌, 4 (1) : 3-12, 1998.
36. 西原克成 : 生命進化を顔で解くー力学対応進化学の実験による検証ー. 顎顔面バイオメカ, 3 (1) : 11-12, 1997.
 37. 西原克成, 田中順三 : 海から陸へー脊椎動物の上陸劇の重力対応ー. バイオメカニズム学会誌 (SOBIM Japan), 21 (4) : 163-170, 1997.
 38. 西原克成 : 現代医学の盲点と生命科学の統一理論 5. 細胞レベルの消化・呼吸・代謝・リモデリングのシステムと免疫病. 治療, 79 (12) : 117-127, 1997.
 39. 西原克成 : リモデリングの引き金と生命科学の統一理論. 第11回日本 ME 学会秋季大会, 平成9年11月20-21日, 横浜, 医用電子と生体工学, 35 (秋季特別号) : 21, 1997.
 40. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka : Bioceramics and trilateral riddle of the vertebrates. Bionic Design Workshop '98, Reconstruction of Biological Functions and Structures -Biomaterials and Tissue Engineering-27, 1998.
 41. 西原克成 : 現代医学の盲点と生命科学の統一理論 6. 呼吸系のウィークポイントと突然死. 治療, 80 (1) : 174-182, 1998.
 42. 西原克成 : 口腔領域における機能性疾患の診断と治療 (1) 総論. 歯界展望, 91 (1) : 195-203, 1998.
 43. 西原克成 : 新しい進化学理論の実験による探索ー脊椎動物の力学対応進化学の実験系の確立ー. 創発システム公開シンポジウム資料 : 57-58, 1998.
 44. 西原克成 : 現代医学の盲点と生命科学の統一理論 7. 混迷の進化論と正しい進化学 (1) ごちゃ混ぜ進化論, 80 (2) : 145-151, 1998.
 45. 西原克成 : 現代医学の盲点と生命科学の統一理論 8. 混迷の進化論と正しい進化学 (2) 脊椎動物の進化の法則の解説, 80 (4) : 100-111, 1998.
 46. 西原克成 : 口腔領域における機能性疾患の診断と治療 (2) 各論. 歯界展望, 91 (2) : 449-459, 1998.
 47. 西原克成 : 新しい進化学理論の実験による探索ー脊椎動物の力学対応進化学の実験系の確立ー. 文部省科研費重点領域研究 課題番号 : 264 創発的機能形成のシステム理論 A01 班平成9年度研究成果報告書 「人工生命システム」 : 96-102, 1998.
 48. 西原克成 : 系統発生の源をさぐるーホヤの幼形進化による原始脊椎動物への進化ー. 遺伝, 52 (4) : 61-66, 1998.
 49. 西原克成 : 顎顔面形態の環境因子による変形の解析と矯正訓練実施後の形態変化の予測法の開発. 平成6-8年度文部省科研費研究成果報告書 一般研究 (B) 課題番号 : 06455008 1998.
 50. 西原克成 : コラーゲンを複合した天然型のヒドロキシアパタイト焼結体の人工骨の開発. 平成6-8年度文部省科研費研究成果報告書 基盤研究 (B) (1) 課題番号 : 06558119, 1998.

51. 西原克成：人工骨髄の開発と実用化ーハイブリッド型免疫器官・人工骨髄造血巣誘導系の実用開発ー。平成7～8年度文部省科研費研究成果報告書 基盤研究(A)(1) 課題番号：07309003, 1998.
52. 西原克成：真正生命発生原則の実験進化学手法による検証ー系統発生の個体発生に及ぼす重力作用の発見ー。日本発生生物学会第31回大会発表要旨集：163, 1998.
53. 西原克成, 蔣麗萍：骨髄造血の系統発生と組織免疫。第31回日本発生生物第31回大会発表要旨集：164, 1998.
54. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 9. 口呼吸病, 80(5)：145-156, 1998.
55. 西原克成：骨格物質の進化とエネルギー代謝.油壺シンポジウム抄録, 1998.
56. 西原克成：顎口腔の機能性疾患と機能療法の実際。バイオプログレッシブ・スタディクラブ会誌, 11：7-14, 1987.
57. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 10. 医術・芸術・文芸と顔とこころ, からだと精神について., 治療, 80(6)：153-164, 1998.
58. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 11. 新しい医学・生命科学の黎明., 治療, 80(8)：146-159, 1998.
59. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 最終回 容姿・容貌の医学と健康科学. 治療, 80(9)：145-159, 1998.
60. 西原克成：口呼吸と治る免疫学の樹立。小児歯科臨床, 1998年8月号, 1998.
61. 西原克成, 蔣麗萍：歯の学問の復活による哺乳類の進化の研究と人工骨格によるモデル実験の開発。第28回日本口腔インプラント学会学術大会抄録集：56, 1998.
62. 西原克成, 蔣麗萍：力学対応進化学とセメント質誘導型人工歯根の開発。第28回日本口腔インプラント学会学術大会抄録集：57, 1998.
63. 西原克成：Haeckel・三木成夫の形態学と芸術の Anatomyーその2 芸術・生命形態・免疫系と生命現象の Simple Theory. 美術解剖学雑誌, 4(1)：7-17, 1997.
64. 西原克成：咀嚼器官とバイオメカニクスー歯の学問の復活と新しい口腔科臨床医学ー。日本歯科医師会雑誌, 51(6)：15-26, 1998.
65. 西原克成：I. 日常診療に必要な応急処置ー唾石症の急性発作ー。凶解救急・応急処置ガイド. Medical Practice, vol.15, 文光堂, 東京, 1998, 42-44.
66. 西原克成：現代医学の盲点と新しい医学・生命科学の黎明ーその1 生命進化を骨で見るー脊柱の進化と系統発生学ー。治療, 81(1)：161-170, 1999.
67. 西原克成：現代医学の盲点と新しい医学・生命科学の黎明ーその2 生命進化を肺で見るー心肺の発生と臓器移植の限界ー。治療, 81(2)：161-176, 1999.
68. 西原克成：現代医学の盲点と新しい医学・生命科学の黎明ーその3 生命進化を顔で見るー「顔の科学」と「歯の科学」。治療, 81(3)：145-166, 1999.
69. 西原克成：チタン電極バイオチャンバーによる人工骨髄造血巣誘導と Wolff の法則・ラマルクの用不用の法則の検証ー実験進化学手法による脊椎動物の三つの謎の

- 解明. 日本生体電気刺激研究会誌, 13:17-29, 1999.
70. 西原克成 (監修: 今堀和友, 山川民夫): 生化学事典. 第3版, 東京, (株)東京科学同人, 1998.
 71. 西原克成, 蔣麗萍: 生命進化を顔で観るー力学対応進化学の検証ー. 第53回日本口腔科学会総会プログラム・抄録集:377, 1999.
 72. 西原克成: 組織免疫ーHLAと重力作用ー. MHC:6(1)98, 1999.
 73. 西原克成: ハイブリッド型人工器官を応用したモデル研究による免疫システムの解明とその応用. 人工臓器, 28(1):7-15, 1999.
 74. 西原克成: Haeckel・三木成夫の形態学と芸術の Anatomyーその4 真正生命発生原則の検証. 第6回美術解剖学会講演要旨集:9.
 75. 西原克成: 生命科学における重力作用の再発見 in vivo 実験と組織培養実験の本質的違いー. 1999年度年次大会講演論文集 Vol.II:365, 1999 (基調講演).
 76. 西原克成: 系統発生学と口腔科臨床医学.第28回奥羽大学歯学会プログラム・予稿集, 6-7, 1999.
 77. 西原克成: 人工骨髄チャンバーを用いた実験進化学手法による脊椎動物の謎の解明. バイオメカニズム学会誌, 23(4):221-225, 1999.
 78. 西原克成: TMJカンファレンス100回記念誌, 九州大学歯学部, 70回「顎顔面の変形症と顎関節疾患の生体力学」:52, 83回「顔面補綴の器官特性と機能療法・機能外科療法について」63-65, 96回「顔の科学 生命進化を顔で見る」80-82, 1999.
 79. 西原克成, 上田貴文: 爬虫類・哺乳類分岐に関する実験進化学的検証. 日本発生生物学会第33回大会発表要旨集:157, 2000.
 80. 西原克成, 上田貴文: 爬虫類・哺乳類分岐に関する実験進化学的検証. 日本発生生物学会第33回大会発表要旨集:157, 2000.
 81. 西原克成, 上田貴文: 実験進化学手法による原初の革命の検証. 第33回日本発生生物学会, 平成12年5月25-27日, 高知, 日本発生生物学会第33回大会発表要旨集:158, 2000.
 82. 西原克成: 海洋生物と哺乳類を用いた進化学の実験学的検証. 日本発生生物学会第33回大会発表要旨集:XI, 2000.
 83. 西原克成: 重力進化学から見た精神作用の系統発生学とバイオリディアンエネルギーの成立. Program & Abstracts, O-Ring Test:93, 94, 2000.
 84. 西原克成: 真正生命発生原則ー個体発生と系統発生の関連性ー. 顎咬合誌, 20(4):495-506, 2000.
 85. 西原克成: 重力と進化ー真正用不用の法則ー. 日口健誌, 21(1):48-61, 2000.
 86. 西原克成: 咬み合わせと全身の関係. 日口健誌, 21(2):165-186, 2000.
 87. 西原克成: 進化から見たヒトの器官の発達. 身体発達, ぶんしん出版, 東京, 身体発達, 36-72, 2000.
 88. 西原克成: 原始脊椎動物の器官と人工材料の複合移植によるハイブリッド型高次代替器官の開発.人工臓器大会プログラム:S-90, 2000.

口頭発表

国際学会

1. Katsunari Nishihara : Development of hybrid-type artificial immune organ by means of experimental evolutionary research method using bioceramics. The 1st International Symposium of Tissue Engineering for Therapeutics Use, March 27–28, 1997 (Invited).
2. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka, Kazushi Hirota : Artificial inducement of bone marrow hemopoiesis by electric bio-chamber of titanium. International Conference on Materials and Mechanics '97 ICM & M '97, Tokyo International Forum, July 20–22, 1997 (Invited).
3. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka : Successful development artificial bone marrow biochamber using bioceramics by means of experimental evolutionary study -Reading trilateral riddles of the vertebrates-. CIMTEC '98, June 14–19, 1998, Florence, Italy.
4. Katsunari Nishihara : Evidence of use and disuse theory of LAMARCK by means of experiments. The 5th Japan-UAS-Singapore-China Conference on Biomechanics. August 9–13, 1998, Sendai, Japan, April 25–26, 1998, Tokyo, 1998.
5. Katsunari Nishihara : On the evolution of the spine in vertebrates. 5th Meeting and Seminar on Ceramics and Tissues, October 1–3, 1998, Faenza, Italy (Invited).
6. Katsunari Nishihara : Evidence of biomechanics-responding evolutionary theory by using bioceramics. the 12th International Symposium on Ceramics in Medicine, October 8–11, 1999.
7. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka, Kazushi Hirota : Development of the successful xenotransplantation system by means of collagen-hydroxyapatite composite : bone is the ion-protein -phosphate delivery system. Faenza, Italy, March 9–11, 2000.
8. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka : Studies on the evolutionary processes of the bone as natural D.D.S. of biological ceramics. Faenza, Italy, March 9–11, 2000.
9. Katsunari Nishihara : evidence-based evolutionary research and development of the practical phylogenetics : verification of the gravity-corresponding evolutionary law by means of biomaterials. Faenza, Italy, March 9–11, 2000.
10. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka : Development of artificial root of gomphosis and ankylosis by biomechanical stimuli. 78th General Session of the IADR, Washington, DC, April 5–8, 2000.

11. K. Nishihara, T. Ueda, K. Hirota, A. Ravaglioli, A. Krajewski : Comparative studies on tissue reaction of newly sintered and conventionally sintered hydroxyapatite.
12. K. Nishihara, T. Ueda, K. Hirota : Development of revolutionizing biomaterials substituting various mammalian organs by means of sintered bioceramics. Bologna, Italy, November, 22–26, 2000.
13. K. Nishihara, T. Ueda, J. Tanaka, K. Hirota : Development of revolutionizing methods for hybrid-type artificial organs by means of bioceramics and biomechanics. Bologna, Italy, November, 22–26, 2000.

国内学会

1. 西原克成：ハイブリッド型人工臓器開発・基本概念と生命現象の統一理論．第36回日本ME学会大会，松本，平成9年4月16～18日，1997．（オーガナイズド・セッション）
2. 西原克成：顔の科学ー生命進化を顔で見るー．第15回日本顎咬合学会学術大会，平成9年4月26～27日，東京国際フォーラム，1997（特別講演）．
3. 西原克成：容姿・容貌の医学と免疫病．第37回日本生理人類学会，平成9年6月30～7月1日，日本女子体育大学，1997（招待講演）．
4. 西原克成：生命形態の進化を顔で見る．進学情報センター主催シンポジウム，「かたちの科学」，東京大学教養学部11号館，平成9年4月21～22日，1997．
5. 西原克成：顔面骨格の歪みと免疫系疾患の関連性．第10回日本口腔診断学会，5月17日，東京，日本大学会館，1997．
6. 西原克成：口腔の機能性疾患の診断と治療．第10回日本口腔診断学会，5月17日，東京，日本大学会館，1997．
7. 西原克成：新開発人工歯根（骨性癒着型およびセメント質誘導型）のバイオメカニクスと歯周構造のリモデリングについて．第27回日本口腔インプラント学会総会，平成9年7月24～26日，名古屋，1997．
8. 西原克成，田中順三：実験進化学手法によるハイブリッド型人工歯根の表面に誘導されたセメント質の検証．第27回日本口腔インプラント学会総会，平成9年7月24～26日，名古屋，1997．
9. 西原克成，森沢正明：ホヤの幼形進化と棘魚類．第30回日本発生生物学会，平成9年5月27～29日，筑波，1997．
10. 西原克成：口呼吸習癖による骨格系機能障害とその治療法について．日本一般臨床医矯正研究会 創設15周年記念学術大会，1996年9月14～15日，東京，1996（特別講演）．
11. 西原克成：命の象徴のまがたまと生命進化．第6回三木成夫記念シンポジウム，1997年7月18日，東京医科歯科大学，1997．
12. 西原克成：三木成夫の形態学と芸術のアナトミー 3（1）幼形進化の謎．第4回美術解剖学会，1997年7月19日，東京芸術大学，1997．
13. 西原克成：三木成夫の形態学と芸術のアナトミー 3（2）精神と心と魂の関係．第4回美術解剖学会，1997年7月19日，1997．
14. 西原克成：ホヤの会，平成9年4月12日，東大理学部附属油壺臨海実験所，1997．
15. 西原克成：形の進化と顔ー生命情報系の暗号解読ー．フォーラム顔学 '97（第2回日本顔学会大会），平成9年8月30～31日，国立科学博物館，フォーラム顔学 '1997．
16. 西原克成：現代医学の盲点と生命科学の統一理論 3. 脊椎動物の謎と骨格系物質．治療，79（9）：150－155，1997．
17. 西原克成，田中順三：21世紀の人工歯根開発の必要にして充分なる条件の探求．

- 日本口腔インプラント学会 17回関東・甲信越支部総会, 平成9年9月21日, 1997.
18. 西原克成: 実験進化学手法による生体代替器官の開発と新しい組織免疫学. 第35回人工臓器学会, 平成9年9月14~15日, 横浜, 1997 (オリジナル賞候補).
 19. 西原克成, 田中順三: 電極を応用した人工骨髄造血器の開発. 第35回人工臓器学会, 平成9年9月14~15日, 横浜, 1997 (シンポジウム).
 20. 西原克成: 原始脊椎動物の毒物排除システムとその応用による大気・大水の浄化法について. 環境バイオテクノロジー研究会平成9年度シンポジウム, 1997年9月12日, 大阪, 1997.
 21. 西原克成: 異所性・異種性の造血巣誘導と人工骨髄創成. 日本機械学会, 第10回バイオエンジニアリング講演会, 1998年1月23~25日, 広島, 1998 (基調講演).
 22. 西原克成: 脊椎動物の謎の解明と生体力学—免疫系・進化・骨髄造血—. 日本機械学会, 第10回バイオエンジニアリング講演会, 1998年1月23~25日, 広島, 1998.
 23. 西原克成: 咬合とバイオメカニクス. 第7回日本全身咬合学会学術大会, 1997年11月29~30日, 東京, (教育講演).
 24. 西原克成: リモデリングの引き金と生命科学の統一理論. 第11回日本ME学会秋季大会, 平成9年11月20~21日, 横浜, 1997.
 25. Katsunari Nishihara, Junzo Tanaka: Bioceramics and trilateral riddle of the vertebrates. Bionic Design Workshop '98, 平成10年1月21~22日, 工業技術院筑波研究センター, 1998.
 26. 西原克成: 真正生命発生原則の実験進化学手法による検証—系統発生の個体発生に及ぼす重力作用の発見—. 第31回日本発生生物学会, 平成10年5月28~30日, 熊本, 1998.
 27. 西原克成: 骨格物質の進化とエネルギー代謝. 第6回油壺シンポジウム, 1998年6月11~12日, 札幌, 1998.
 28. 西原克成, 蔣麗萍: 歯の学問の復活による哺乳類の進化の研究と人工骨格によるモデル実験の開発. 第28回日本口腔インプラント学会学術大会, 平成10年9月25~27日, 大阪1998.
 29. 西原克成, 蔣麗萍: 力学対応進化学とセメント質誘導型人工歯根の開発. 第28回日本口腔インプラント学会学術大会, 平成10年9月25~27日, 大阪57, 1998.
 30. 西原克成: 新しい進化学理論の実験による探索—脊椎動物の力学対応進化学の実験系の確立—. 平成10年12月18~19日, 創発システム公開シンポジウム, 1998.
 31. 西原克成: チタン電極バイオチャンバーによる人工骨髄造血巣誘導と Wolff の法則・ラマルクの用不用の法則の検証—実験進化学手法による脊椎動物の三つの謎の解明—. 第26回日本生体電気刺激研究会, 平成11年2月27日, 京都, 1999 (特別講演). 日本生体電気刺激研究会誌, 13:17-29, 1999.
 32. 西原克成, 蔣麗萍: 生命進化を顔で観る—力学対応進化学の検証—. 第53回日本口腔科学会総会, 平成11年4月15~16日, 東京, 1999.

33. 西原克成：組織免疫－HLA と重力作用．第 8 回日本組織適合性学会大会，平成 11 年 7 月 8～9 日，京都，MHC：6 (1) 98，1999（最優秀抄録賞）．
34. 西原克成：Haeckel・三木成夫の形態学と芸術の Anatomy －その 4 真正生命発生原則の検証．第回美術解剖学会，東京芸術大学，6 月 24 日，1999．
35. 西原克成：生命科学における重力作用の再発見－in vivo 実験と組織培養実験の本質的違い．日本機械学会 1999 年次大会，1999 年 7 月 27～29 日，東京，慶應義塾大学，1999（基調講演）．
36. 西原克成：重力と生命現象－Roux のバイオメカニクスについて－．日本機械学会 P-SC303 バイオニックデザイン研究調査分科会，1999 年 7 月 30 日，東京，1999（話題提供）．
37. 西原克成：生命科学における重力作用の再発見．奥羽大学歯学会教育セミナー，1999 年 11 月 5 日，福島県郡山，1999（教育セミナー）．
38. 西原克成：系統発生学と口腔科臨床医学．第 28 回奥羽大学歯学会，1999 年 11 月 5 日，福島県郡山，1999（特別講演）．
39. 西原克成，上田貴文：爬虫類・哺乳類分岐に関する実験進化学的検証．第 33 回日本発生生物学会，平成 12 年 5 月 25～27 日，高知，2000．
40. 西原克成，上田貴文：爬虫類・哺乳類分岐に関する実験進化学的検証．第 33 回日本発生生物学会，平成 12 年 5 月 25～27 日，高知，2000．
41. 西原克成，上田貴文：実験進化学手法による原初の革命の検証．第 33 回日本発生生物学会，平成 12 年 5 月 25～27 日，高知，2000．
42. 西原克成：（ワークショップ 4）海洋生物と哺乳類を用いた進化学の実験学的検証．第 33 回日本発生生物学会，平成 12 年 5 月 25～27 日，高知，2000．
43. 西原克成：重力進化学から見た精神作用の系統発生学とバイオリディアントエネルギーの成立．第 4 回 Bio-Digital O-Ring Test 国際シンポジウム，7 月 20～23 日，東京，2000（特別講演）．
44. 西原克成：原始脊椎動物の器官と人工材料の複合移植によるハイブリッド型高次代替器官の開発．第 38 回日本人工臓器学会，四日市，2000 年 9 月 27～29 日，2000（オリジナル賞候補）．

出版物（１）分担執筆著書

1. 科学10大理論「進化論争」特集，108-119，「重カラムルクイズム」実験進化学と生命科学の統一理論．学研，東京，1997
2. 片岡洵子・編：身体発達，36-72，進化からみたヒトの器官の発達．ぶんしん出版，東京，2000.
3. 長田義仁・編集代表：バイオミメティクスハンドブック，2.1 骨格器官の進化，12.1 ハイブリッド型人工歯根の開発．エヌ・ティー・エス，東京，2000.
4. 脳図鑑，58～94，第一章 育つ脳，第三章 顔と心，からだと精神．工作社，東京，2001.
5. サイエンスアイのにつぼん名物研究室—生命の謎に迫る凄い研究者たち—生物進化の謎に挑む，83-92，進化論を塗り替えるサメの進化実験．河出書房，東京，2001.

出版物（２）西原克成著

1. 生物は重力が進化させた．講談社 ブルーバックス，東京，1997.
2. 赤ちゃんはいつ「人間」になるのか．クレスト社，東京，1998.
3. 健康は呼吸で決まる．実業日本社，東京，1998.
4. 重力対応進化学．南山堂，東京，1999.
5. 免疫病は怖くない．角川書店，東京，1999.
6. 新時代育児 BOOK．駿達出版，湾台，1999.
7. 赤ちゃんの進化学．日本教文社，東京，2000.
8. 2週間で美人になる本．マキノ出版，東京，2000.
9. 顎・口腔の疾患とバイオメカニクス．医歯薬出版，東京，2000.
10. 赤ちゃんの生命のきまり．言叢社，東京，2001.
11. お母さんは名医．東洋経済，東京，2001.
12. 追いつめられた進化論．日本教文社，東京，2001.
13. 西原博士のかしこい赤ちゃんの育て方．アート医研，東京，2001.
14. 眠りながら綺麗になる本．三笠書房，東京，2001
15. アレルギー体質は口呼吸が原因だった．青春出版社，東京，2001.